

訪問リハビリテーション通信

第67号

出版責任者

“絆”きずな

訪問リハビリテーション
振興委員会

訪問リハビリステーション 事業報告

前号に続き、私ども訪問リハビリテーション振興財団が、東日本大震災後に開設した「訪問リハビリステーション」の2019年度上半期実績と取り組みについて、ご報告させていただきます。

【気仙沼訪問リハビリステーション】

平成31年4月～令和元年9月まで 新規ご利用者人数：32名 延ご利用者人数：2066名

現在のスタッフは理学療法士5名、作業療法士2名、事務員1名の8名の体制で、上記上半期の延べ訪問件数3076件となっています。当事業所の特色としては地元気仙沼出身者が4人いることと、新卒者を2年前から採用し続けている事です。地域に根差した事業所を目指し日々奮闘しております。

気仙沼訪問リハビリステーションも、他の事業所同様に、新規のご利用者が継続していらっしゃいます。こちらも、地域でニードが存在する事がわかります。引き続き、地域に必要と思っ頂ける事業所を目指していきたいと考えています。

～南から始まる「訪問リハビリテーションの魅力紹介」～ 神奈川県偏

神奈川県は、各士会が協同し地域リハビリテーション三団体協議会を2014年に設立し、訪問リハ関連研修を運営しています。訪問リハに携わるスタッフの不安や明日から使える技術・知識を共有できるように努めています。

最近、訪問リハを始めただばかりのスタッフと話をするに「利用者さんに正しくアプローチ出来ているか不安がある」という悩みをよく聞きます。私も訪問リハ業務を行っている時は一対一で介入し、利用者をいかに機能改善できるか自問自答しながら行っていました。リハ職が関わることで機能回復のみならず利用者の生きがい、役割の創出が出来、心身共に改善されていると思います。また、多職種で利用者へアプローチをしていく必要性も強く感じました。リハ職にとって魅力を感じられる仕事だと思っています。今後も訪問リハ領域を皆と一緒に盛り上げていければと思います。

神奈川県訪問リハ・地域リーダー 作業療法士
横浜YMCA学院専門学校 遠藤 陵晃

～南から始まる「訪問リハビリテーションの魅力紹介」～ 千葉県偏

私にとって訪問リハビリテーションの魅力といえば、ご利用者の生活の中で「～したい！」に直接的に関われること！訪問リハビリテーションに携わって約17年、様々なご利用者と出会うことができました。「自宅のお風呂に入りたい！」、「お父さんに料理を作ってあげたい！」、「寝たきりだけど自宅ですと飼犬のそばで暮らしたい！」、「ピアノの発表会でステージの中央まで一人で歩いていき、客席に礼ができるようになりたい！」等・・・ご家族やご利用者一人一人、様々な思いをもって生活されています。その思いがどこまで実現可能か、リハビリ専門職として何が出来るかを考え、そして、ご家族や他のサービス事業所など、ご利用者に関わる全ての方々と連携して実現できた時の喜びは自分の中でのやりがいとなっています。

千葉県訪問リハ・地域リーダー 理学療法士
(株)祥ファクトリ さかいリハ訪問看護ステーション 外口 徳章